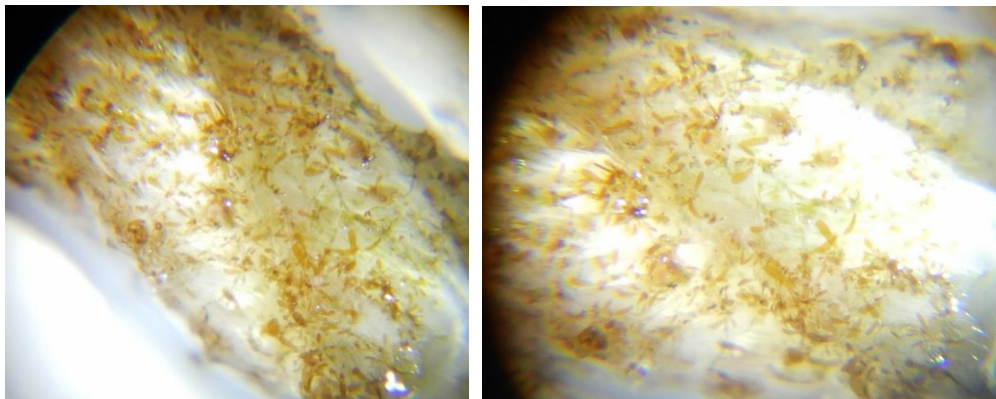


●浜の話題

- 10月上旬、三浦半島の各浜の漁業者が生産するワカメ種苗を検鏡した所、2～4列のしゃもじ型の芽胞体が多く確認されました。地先海面の水温も23℃以下になってきたので、中旬以降順次仮沖出しをして、11月上旬には肉眼でワカメの幼葉が確認できるようになりました。



40倍の顕微鏡で確認した種系 クレモナ系上にワカメの芽胞体が多く確認できました！

- 10月5日、(一財)東京湾南部水産振興事業団と(公財)日本釣振興会は、横須賀市東部漁協浦賀久比里支所の組合員立ち合いのもと、カワハギの稚魚(全長約7cm 1万7千尾)を浦賀湾とその周辺に放流しました。放流したうちの300尾には、アンカータグを装着しました。また、同事業団では同日に、水産技術センターで生産したサザエの稚貝(殻高25mm 1万個)も浦賀久比里支所の地先に放流しました。



カワハギ種苗放流(左2枚)とサザエ種苗放流(右)の様子

- 10月11日、横須賀市東部漁協と(一財)東京湾南部水産振興事業団は、同組合北下浦支所の組合員の立会いのもとで、カサゴ稚魚(全長約7cm、3万尾)を北下浦漁港に放流しました。



北下浦漁協で行われたカサゴ稚魚の放流の様子

- 10月11日、(一財)西部水産振興事業団の支援を受けて、長井町漁協がカサゴ6cm種苗を4千尾、10月9日は「荒崎海岸クリーンフェスタ」で、(公財)日本釣振興会神奈川県支部からカサゴ5千尾、(株)ワールドスポーツから3千尾の支援を受けて、放流しました。

- 10月13日、腰越漁協、大磯二宮漁協、小田原市漁協、岩漁協及び真鶴町漁協の各地先でカサゴ及びメバルの種苗放流がありました。腰越漁協、小田原市漁協、岩漁協及び真鶴町漁協の地先では、(公財)相模湾水産振興事業団が各漁協の立会のもと、カサゴ種苗計2万尾(各5千尾)及びメバル種苗計2万尾(各5千尾)を放流しました。大磯二宮漁協はカサゴ種苗を700尾、大磯二宮漁協及び腰越漁協はメバル種苗をそれぞれ550尾、1千尾を放流しました。



カサゴ・メバル種苗放流の様子

- 10月14日、当センター栽培推進部は、調査船江の島丸で底延縄による2回目のトラフグ調査を実施しました。今回は38.8~48.8 cm 1.2~2.4 kg、平均44 cm 1.9 kgの4尾が漁獲されました。トラフグ延縄漁業者によると「この時期にしては型が良いので、今漁期の漁模様に期待したい!」という話がありました。

江の島丸コラム <https://www.pref.kanagawa.jp/documents/11459/torahugu.pdf>

第二回トラフグ試験操業 速報

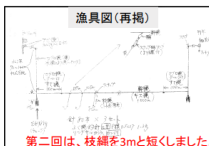
海ぶどう生産マニュアル

小坪漁協 ヴェルデ丸 座間指導漁業士監修

10/14に実施した分布域調査の結果です。



位置	全長(cm)	重量(kg)
St.4	38.8	1.2
	41.6	1.9
	48.8	2.1
St.6	47.8	2.4



水槽準備
海ぶどう生産には広く浅い水槽が好適。小坪では建材ブロック2個重ねて漁港内に構築5.7×6.1m H38cm

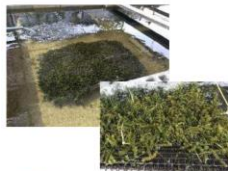


種苗導入
@2,000円/kg 送料別



種苗の挟込み
苗床は87×53mmの塩ビ枠にトリカルネット下地3mm、被せ1cmで、種苗を敷き詰め上からトリカルネットを被せてインシロックで縁辺を留め圧をかける。なるべくぎゅうぎゅうに詰めて、抑え込むほどいい。苗床16枚で種苗13kg必要!

位置	St.4	St.5	St.6
投縄開始時刻	8:33	9:05	9:42
揚縄開始時刻	11:58	欠測	欠測
水深(m) (投縄開始地点 終了地点)	80.0-欠測	60.5-54.0	52.9-49.5
海底水温(°C)	17.1	19.7	21.9
漁獲物 (カッコ内の数字は尾数)	トラフグ(3)	ウツボ(5程度)、アミウツボ(3)、シイラ(2)	トラフグ(1)、ウツボ(5程度)、アミウツボ(3)、シイラ(1)、カナフグ(1)
備考	-	ウツボ類が多かった他、底生付着生物の一部が釣針に引っかかる、根掛かりで幹縄が切れる(St.5)など	-



成長待ち
30日でトリカルネットからはみ出し大きく成長。



収穫
ブドウの房部と茎部を分割、茎部は再度挟み込んで収穫ループ!



養生
茎から切った房部は、切断箇所から傷みやすいので、清浄な海水に抜気して3日間養生する。



販売
@8000円/kg
小売りは50g単位でパック詰めして880円で販売

連絡先 神奈川県水産技術センター 栽培推進部
TEL:046-882-2314(担当:加藤大棋)

記事↑ [トラフグ底縄調査結果\(左\)](#)

記事↓ [海ぶどう生産マニュアル\(右\)](#)

- 10月中旬、小坪漁協では、7月から始めて今年4回目の海ぶどうの収穫がありました。今年は、自作水槽の拡張や収穫期の調整等を工夫して、前年比3倍の収量があり、地元指導漁業士(ヴェルデ丸さん)監修で海ぶどう生産マニュアルを作成しました。ヴェルデ丸さんは、県下に海ぶどう養殖を普及するため、海ぶどう養殖に興味を持つ漁業者がいる場合にはマニュアルを提供されるそうなので、興味のある方は担当普及員にお伝えください。

- 10月18日、真鶴町漁協及び岩漁協の素潜り漁を営む漁業者が岩漁協事務所にて藻場勉強会を開催しました。「試験場のカジメ増殖研究」について相模湾試験場の研究員から話題が提供され、地先の磯焼け状況の情報共有や、今後の磯焼け対策について協議しました。



藻場勉強会の様子

- 10月19日、水産技術センターでは、昨年6月から横須賀市東部漁協にご協力いただきトリガイの養殖試験を実施しており、この日も当センターの研究員が同漁協所属の武丸さんに協力して頂き、トリガイ養殖の定期的な調査を行いました。また、7月に調査した時に、天然のトリガイから放卵されたと思われる稚貝がカゴのなかで成長していることを確認しましたが、この日は、これらの貝を測定したところ、殻長5cmほどに成長していました。最初から養殖していたトリガイも7cmに成長しており、今後、トリガイが新たな養殖対象種となることが期待されます。



養殖中のトリガイの様子

- 10月19日、BS朝日の「魚が食べたい！」で平塚のシイラと二宮の地引網漁が紹介されました。
- 10月20日、長井町漁協及び近隣漁協でアオリイカ漁が解禁しました。今年は、長井・大楠・葉山・小坪の各浜で産卵礁設置による資源増殖がなされると共に、長井町漁協の呼びかけで腰越までの近隣漁協にご理解・協力いただき、孵化後の小型のイカが多い期間を自主禁漁としました。その効果もあり各浜の曳釣漁では前年に比べて大型の中銘柄主体で、好漁時には1日15杯以上釣れるそうです。
- 10月下旬から、平塚市漁協所属の定置漁業で、アシストスーツの試用を行っています。アシストスーツは、ゴムの収縮力で上半身の引上げを補助します。定置網の操業の負担軽減を期待します。



アシストスーツを着用した様子

- 10月25日、地球市民かながわプラザ映像ホールで、神奈川県漁業士研修会が開催されました。コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの開催となりましたが、漁業士及び関係団体から60名参加いただきました。今回の講演は神奈川県水産技術センター栽培推進部の担当主任研究員による「磯焼けの現状と海藻の増殖試験について」と、担当技師による「サザエ、アワビ等の磯根資源について」で、各浜で問題となっている磯焼けをテーマとした内容で参加者は熱心に聴講していました。



漁業士会会長挨拶



講演の様子

- 10月27日、腰越漁協でサザエ種苗（公財）相模湾水産振興事業団1万5千、腰越漁協5千）の放流がありました。当日は放流体験で腰越小学校5年生児童が集まり、サザエの成長や放流物と天然物の識別法について、当センター栽培推進部研究員より説明があり、熱心に聞いていました。その後、漁船に乗り込み、海上で種苗放流しました。当日の様子は同漁協が運営するブログに掲載されております。腰越漁業協同組合ブログ <https://blog.goo.ne.jp/koshigoegyokyou>
- 11月1日、小田原市漁協青年部は当センター栽培推進部が生産したアカモク種苗を用いた養殖試験を開始しました。当日は養殖用ロープへの種苗の挟み込みを行いました。作成したロープは食害防止のため、水温が下がるまで生け簀内に保管され、年明け頃に設置されるようです。



養殖用ロープにアカモク種苗を挟み込む様子

● お知らせ

「新春漁業者交流大会について」

県漁連、神奈川県漁業士会、県の共催による新春漁業者交流大会を次のとおり開催する予定です。コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの開催となりますが、皆様のご参加をお待ちしております。

（参加申込不要、当日受付でございます）

日時：令和5年1月13日（金）13:00～15:00

場所：かながわ県民センターホール（横浜駅西口徒歩5分）

内容：漁業士認定証書授与、漁業者活動発表「真鶴町岩沖におけるイワガキ養殖について」（岩漁業協同組合 皆木青年漁業士）、漁業士会活動紹介、話題提供「生残率を高める種苗放流方法について」（公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会 今井専務理事）